

# 上海・同済大学中国語実践&文化体験プログラムについて



海外交流

中田 聡美\*

Tongji University Short-term Chinese Language and Culture Program

Key Words : Chinese Language, Chinese Culture

## はじめに

「上海・同済大学中国語実践&文化体験プログラム」(以下「上海研修」とする)とは、大阪大学外国語学部中国語専攻が、中国・上海の同済大学にて実施している、中国語専攻1年生の学生を対象とした語学・文化研修である。私は昨年度(2017年度)の4月に大阪大学に着任し、以前から実施されていた上海研修を私が担当することになった。それは、私が1年生Bクラスの授業を週に2コマ担当しており、アカデミックアドバイザー(クラス担任のようなもの)でもあるため、1年生の学生と関わる機会が多いことも理由の一つであった。研修参加者は1年生ということもあって、中国に行ったことのない学生がほとんどであり、多くの学生にとってはじめての中国体験となる。それを学生と共有できるということで、私も非常に楽しみにしていたが、また無事に研修を終えることができるだろうかと不安も少しあった。本稿では、大阪大学外国語学部中国語専攻が実施している上海研修の概要を紹介した上で、私ははじめて同行した2017年度の研修の様子について報告したい。

## 上海研修の概要

まず上海研修の概要について紹介する。本研修は同済大学国際文化交流学院が、大阪大学外国語学部

中国語専攻の1年生のために開設している短期の語学・文化研修である。研修の目的は、①中国語運用能力をレベルアップさせ、中国文化を体験的に理解すること、②他者・他文化を理解し、自らをアピールできる中国語能力を身につけることである。教室での授業で中国語を学ぶだけではなく、実際に現地で生の中国語に触れることで、体験的に中国語を学んでほしいとの考えから研修を実施している。上海研修は全員に参加が義務付けられているものではなく、希望者のみが参加するかたちをとっているが、毎年20名近くの学生が参加している。参加者は研修開始以降、2013年度20名、2014年度16名、2015年度19名、2016年度18名であり、近年は20名を下回っていたため2017年度はどうなるかと少し心配もあったが、結果的には最多の25名が参加した。

上海研修は2013年度より毎年実施されており、2017年度で5回目の実施であった<sup>1</sup>。1年生の学生を対象とした研修だと述べたが、毎年春休み中の3月を利用して行くことになっているため、正確には1年間の中国語学習を終え、4月から2年生になる学生を対象としていると言える。研修期間は2週間で、2017年度は3月11日から3月24日までの14日間を利用して実施した。そのうち私は3月11日から3月16日までの6日間、学生達に同行した。



\* Satomi NAKATA

1988年1月生まれ  
大阪大学大学院 言語文化研究科 言語社会専攻 博士後期課程(2016年)  
現在、大阪大学大学院 言語文化研究科 言語社会専攻 助教 博士(言語文化学) 中国語学  
TEL : 072-730-5243  
FAX : 072-730-5243  
E-mail : nakata@lang.osaka-u.ac.jp

## 授業について

次に同済大学での授業について紹介する。2週間の間、中国語の授業、文化体験の授業などが同済大学国際文化交流学院によって用意されている。これまでは研修参加者が20名に達していないこともあったため、授業は1クラスで1人の教員によって行われてきた。2017年度も同様に1クラスでの授業開講となったのだが、予想外なことに25名の参加

申し込みがあったため、語学の授業としては1クラスの人数が少し多い状況となってしまった。今後の参加人数にもよるが、参加者が増えるようであれば(そうあってほしいと願っている)、学生を2クラスに分けて授業を開講することも考えていく必要がある。

学生は基本的に8:00から11:35まで中国語の授業を受ける。授業はもちろん中国人の先生によって、中国語のみで進められる。今回の研修では若い女性の先生が授業を担当してくださった。学生達も先生を“小汪老师”(姓が汪であるため“汪老师”(汪先生)なのだが、もう一人男性の“汪老师”がいたため、若い方の汪先生という意味で“小汪老师”と呼ばれていた)と呼び、親しみを感じているようだった。日本の大学で中国語を学ぶ場合、特に初級の段階では、説明は日本語で行われることが多いが、中国では直接法(Direct Method)によって授業が進められるため、学生は常に緊張感を持って、授業に臨むことができたようである。



写真1: 同済大学での中国語の授業風景

数日間授業を受けた後、学生に授業の様子を聞いてみた。その時の答えの中で印象に残っているのは「上海の人はあまり“儿化”していない」という感想だ。“儿化”というのは、北京を中心として主に北方の人に見られる語音現象であり、音節末尾が卷舌音化するというものである。教科書には単語を“儿化”して表記し教えるものが多くあり、日本人にとってはなかなか発音し難い音であるため、苦戦する学習者も少なくない。一生懸命日本で“儿化”を練習したものの、いざ中国に来てみると、なんと“儿化”していない人が多いものだから少し騙されたような気がするのかもしれない。今後発音練習する際は“儿化”に関して寛容になってもよいのではない

かと考えさせられる一言であった。

午前中に中国語の授業を受けた後、午後は教室での授業ではなく、文化体験の授業や学外活動が用意されている。昼食後の時間は、学生も授業を聞いているだけでは眠くなりがちであるから、このように授業が用意されているのは大変よいことだと感じた。また午後の開始時間は14時であり、学生はゆっくり昼食の時間をとることができる。



写真2: 文化体験の授業で“剪紙”(切り絵)を作成

午後の文化体験の授業では、水墨画、中国武術、中国“剪紙”(切り絵)などを体験した。これらの授業は“小汪老师”ではなく、芸術や武術を専門とする別の先生がそれぞれ担当することになる。学外活動としては、上海の有名な観光地である東方明珠、豫園、城隍廟、魯迅故居、上海博物館、南京路步行街をみんなで見学した。また“弄堂”(上海周辺で小路のことを指す)を散策し、上海の人々が実際に生活している様子を見ることができた。



写真3: 同済大学日本語学科の学生達と豫園にて

### 中国人学生との交流

研修中は同済大学日本語学科の学生と交流する機



会を多く持つことができた。また彼らのおかげで上海研修が充実したものになった。学外見学の日には、いつも同済大学日本語学科の学生が複数で引率に来てくれた。日本語学科の学生達は授業があるにもかかわらず、授業時間の合間を縫って、私達を案内してくれたのだ。多くは日本語を1、2年間勉強した学生であり、中にはこれから日本へ留学することが決まっている学生もいた。はじめのうちは、お互いに話しかける勇気が出せずにいるようだったが、日にちが経つにつれ、中国人学生と積極的に中国語で交流しようとする姿が見られるようになった。

また研修中に、同済大学の学生と大阪大学の学生との交流会を開催してくれた。交流会を通じて、学生も先生が話す中国語のみならず、同年代の学生の話す、生の中国語に触れることができたはずである。



写真4：同済大学の学生との交流会の様子



写真5：同済大学の学生と大阪大学の学生で記念撮影

### 中国 SNS 「WeChat」 の活用

最後に少し余談ではあるが、研修の際に大きく役立ったものとして“微信”(WeChat)が挙げられる。WeChatとは、現在中国において多くの人に利用されている中国のSNSの1つである。1対1でメッセージや写真のやりとりを行うことができるの

はもちろんのこと、グループを作成することで、一度に多くの人への発信が可能となる。同様のサービスは他のSNSにもあるのだが、中国ではWeChatの認知度が高く、中国に行く場合はWeChatが役に立つとの考えから、中国語専攻の学生は基本的にWeChatのアカウントを持っている。そこでまず出発前に“微信群”(WeChatグループ)を作成し、出発前に様々な情報共有を行った。そのWeChatグループには私も加わり、出発前に聞いておきたいことがあれば、そこで質問できるようにした。そうすることで、1人の質問を全員で共有することができ、同じような質問が重複するのを避けることができる。研修中は、急な集合時間や場所の変更があった場合や、学外活動で撮影した写真を共有したい場合などにWeChatを活用していた。日本語学科の学生達にもWeChatグループに加わってもらった。また学外活動では、全員ではなくグループで行動する場合もあるのだが、無事に宿舎に戻ったことを知らせるためにも非常に役立った。

### おわりに

私は教室で学習してきた知識が、実践とつながった時に学習者は大きな喜びを感じ、それによって学習のモチベーションを高めることができると考えており、上海研修が少しでもその手助けになればと願っている。今年度も多くの1年生と中国体験を共有できることを楽しみにしている。



写真6：同済大学での研修を終えて

(注)

<sup>1</sup> これまでの上海研修の様子については、大阪大学外国語学部中国語専攻のホームページに掲載されている研修レポートを参照されたい。

[http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/chinese/web/?page\\_id=20](http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/chinese/web/?page_id=20)